

研究開発・臨床評価等



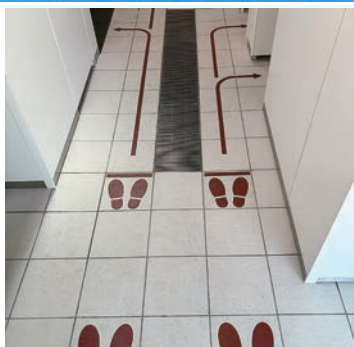
【介護ロボット相談窓口】

介護現場の生産性向上に向けた介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業(厚生労働省)の相談窓口事業を実施しました。介護現場から60件、開発企業から36件(R5年1月現在)の相談がありました。



【インクルーシブ遊具広場の設計協力】

2023年9月、横浜市金沢区の小柴自然公園内に横浜市初のインクルーシブ遊具広場が完成しました。当課では、回遊できる動線計画、色覚障害に配慮した遊具の色彩計画、片麻痺の左右差に対等したトイレ配置、車椅子対応手洗い台、遊具に並ぶ列や待つ場所の視覚化、トイレ動線の視覚化、ストレッチャー型車椅子対応の遊具のベンチの移設等の提案をしました。横浜市環境創造局



【浴槽レス浴室の研究】

冬場に高齢者が浴槽で溺れる事故が多発しています。その解決方法のひとつとして、浴槽のない浴室(シャワーブース等)の開発が進んでおり、その基準作り協力しています。国土技術政策総合研究所



【ニーズ&アイデアフォーラム】

医療・福祉系、デザイン系、工学系の異なる学校の学生が混成チームを作り、障害のある人のニーズを探りながら支援機器のアイデアを考え、形にする事業の協力をしています。国立障害者リハビリテーションセンター



【車椅子用クッションの開発】

ゲル素材を用いた車椅子用クッションであるため、除圧性と安定性に優れています。メンテナンス等を必要とせず、現場で容易に使用できる姿勢保持クッションを共同開発しました。(株)加地



【特別支援学校トイレ調査】

横浜市内の特別支援学校(肢体系)6校の教員にアンケート調査を実施しました。トイレ介助の困りごと、導入してみたい福祉機器等の内容を整理しました。TOTO(株)



【電動車椅子サッカー】

車椅子で気軽にサッカーを楽しむために、簡単に取り付けられるフットガードを開発しています。臨床現場である特別支援学校とクラブチーム、横浜ラポール、電動車椅子メーカーと共同で進めています。矢崎化工(株)



【おもちゃ作りプロジェクト】

多機能拠点「こまち」へ、重症心身障害のある子どもが遊べるおもちゃ作り支援を行いました。「シャボン玉マシン」と「ひとりスヌーズレンフレーム」を試作し、おもちゃ作りのワークショップを実施しました。



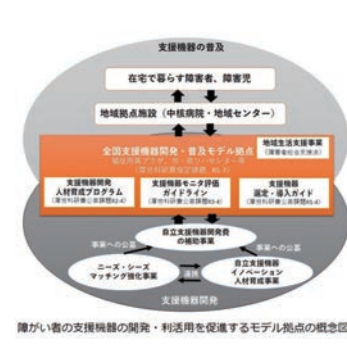
【テクニカルショウヨコハマ2024】

「テクニカルショウヨコハマ2024」(第45回工業技術見本市)に出展しました。企業との共同開発製品や介護ロボット等を展示し共同開発・臨床評価事業、リハ事業団のPRを行ってきました。



【おもちゃ調査】

ある特定のおもちゃについて、発達障害のある子どもがどのように遊び、どれくらいの期間で遊ばなくなるのか等、保護者からみた課題や問題点を定期的に観察するモニター調査を実施しました。(株)タカラトミー



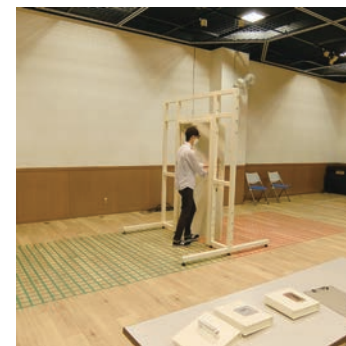
【支援機器モデル拠点構築研究】

厚生労働行政推進調査事業「支援機器の開発・普及のためのモデル拠点構築に資する研究」の分担研究者として、障害者自立(いきいき)支援機器普及アンテナ事業推進のため、調査研究を行っています。



【国際福祉機器展2023】

今年度も国際福祉機器展の子ども広場の運営に協力しました。「子どものリフト・吊り具 考え方と選び方」の冊子を作成し、webサイトから無料でダウンロードできます。(一財)保健福祉広報協会



【防火戸の通り抜け実験】

脳血管疾患による片麻痺の方たちを対象に、防火戸の通り抜け実験をおこないました。とつての形状を4パターン用意し、どのとつてが使いやすいか等の検証もおこないました。日本福祉大学、大阪工業大学



【防音マット・環境デザイン賞】

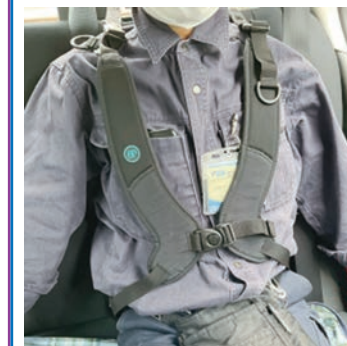
2020年に開発した防音マット(yマット)が公益財団法人日本騒音制御工学会の「環境デザイン賞」を受賞しました。この受賞を機に、発達障害のある人たちの理解が進むことを期待します。田島ルーフ(株)、大成建設(株)



【オープンラボの実施】

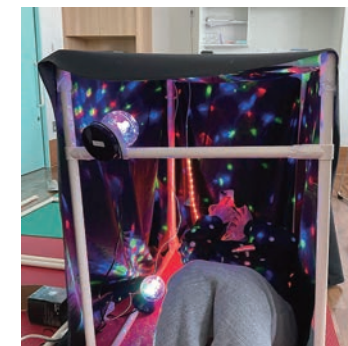
センター内の職員連携を目的に、年度末にオープンラボを実施しました。3Dプリンタのおもちゃワークショップ、電動車椅子サッカー、AIスピーカーなどを展示。1日2回、オンライン配信も行いました。

直接的利用者支援



【シートベルト・発達障害】

運転中に後部座席の本人がシートベルトを外し、後部座席から保護者の方に手をまわして身体をつかんだりする行為が見られました。特注のハーネスベルトを取り付け、車内での安全確保を行いました。



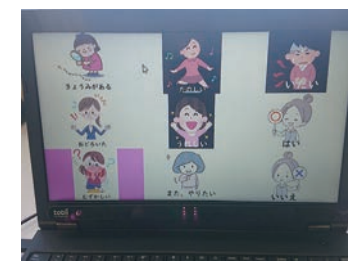
【スヌーズレン】

スヌーズレンとは、オランダ語の2つの単語、スヌーフレン「鼻でククン臭いを嗅ぐ」とドースレン「ウトウトと居眠りする」の合成語です。ひとりでも手軽にスヌーズレンが体験できるキットを作製しました。



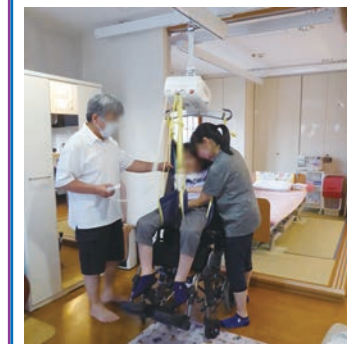
【移乗シートの改造】

床移動をされる脳性麻痺の方のために、移乗シートに持ち手を取り付けた介助器具を作りました。介助者が本人のお体を引っ張って移動されていましたが、製作した器具によって介助負担の軽減につながりました。



【視線入力装置】

ローコストの視線入力装置を用いて、9つのシンボルを選んで、それぞれ録音音声が発声するシステムを試作しました。難病系重度障害児の意思表出手段の一つとして、あるいは訓練用としての使用を考えています。



【住宅改造・肢体不自由】

ベッドから車椅子やシャワーキャリー、床に移乗できるようリフトを設置し、ご家族の介助負担軽減を図りました。リフト本体から出ている2本のロープなどを利用して部屋間の移動もできます。



【住宅改造・発達障害】

子どものこだわり行動により、コンセントプレートが取り外されている状態であったため、カバーを設置しました。はさみやフォークなどをコンセント口に差し込むと感電のリスクが高まるため、安全対策を実施しました。